

第1回 画像等手術支援認定診療放射線技師認定試験 東京会場参加報告

札幌医科大学附属病院 平野 透

6月17日(日)に第1回 画像等手術支援認定診療放射線技師認定試験が全国4会場(仙台、東京、名古屋、岡山)で行われ、4会場合わせて約300名の方が受験されました。北海道からも私の知っている限りでは東京会場に3名(2名はキヤノンCTユーザー)が受験していました。画像等手術支援って何?と思われる方もいらっしゃると思います。画像等手術支援は手術前又は手術中に得た画像(主にCTやMRI画像)を3次元に構築し、手術の過程において3次元画像と術野の位置関係を把握することで手術を補助するというものです。つまり我々診療放射線技師が術前に作成した3D画像が間接的ではありますが、手術に用いてもらうことで手術手技の点数にこの画像等手術支援手技料が加算されることとなります。現在頭部領域から胸部、腹部、整形領域など幅広い手術分野でこの画像等手術支援加算が得られています。(詳しい手術適応症例などは診療点数早見表などを参照ください。)

この画像等手術支援加算ですが実際には、「手術の過程において、3次元画像と術野の位置関係をリアルタイムにコンピューター上で処理する」という文言が診療報酬には書かれています。地域などにより若干地域に社会保険の審査で異なりますが、術前に作成した3D画像を術中に確認(手術室の電子カルテ端末)することで、加算点数が取れている地域が多いようです。

何故、画像等手術支援認定診療放射線技師が必要か?

前に述べたように術前にCTやMRIのデータで作成した3D画像は多くの手術現場で参照されていると思います。しかし、3D画像は作成者間の差が大きく標準化されていないと言われていています。私は思うに3D画像作成に関する作成技術は、画像処理をある程度経験している診療放射線技師であれば、それほど大きな問題はないと思っています。問題は標準的な手術に必要な画像処理や表示方法の知識が不足しているのだと考えます。そこで日本診療放射線技師会が手術に必要な3D画像の標準化を目指し、画像等手術支援分科会を立

ち上げ、今回第 1 回目の認定試験が行われたという経緯になってます。

この認定技師の資格基準は診療放射線技師としての診療業務 5 年以上と画像等手術支援分科会が行っている診療放射線技師基礎技術講習「画像等手術支援」を修了していると必要書類提出により現在暫定的に受験可能となります。今後この試験資格には指定施設での 3D 画像作成実務 450 時間が必要になるとの話もあるので、この資格を取得したい方はここ数年以内に受験した方が良いかと思います。今回は試験官として参加しましたが、試験問題 50 問で試験時間は 90 分でしたが、試験終了 10 分前にはおよそ 80%以上の受験者が回答終了し退出しており、第 1 回目の試験ということでかなり一生懸命勉強されたのではないかと感じました。またはもしかしたら始まったばかりの認定資格なので、あまり難しい問題は出していなかったのでは？（勝手な憶測ですが、）と思ったりしました。とにかくこの画像等手術認定診療放射線技師を取得するのは、「今しかない！」と思ってます。画像等手術支援の基礎講習も何度か聴講しましたが、手術に必要な解剖から術式、画像処理技術等とても勉強になると思います。現在手術支援の 3D 画像の主なモダリティは CT であり、CT に関わる診療放射線技師の重要な業務であると感じます。是非、来年度受験されてはどうでしょうか？



試験開始20分前の様子